



第35回日本臨床工学会

ランチョンセミナー 23

市立病院における

ICT機器を活用した**医療DX**の取り組み

日時

2025年**5月18日**(日) 11:55~12:55

会場

グランキューブ大阪(大阪国際会議場) 12階 特別会議場
第17会場

座長



井上 博満 先生

日産厚生会玉川病院 臨床工学科 科長

演者



平澤 慎也 先生

飯田市立病院 診療技術部 臨床工学科 主任

※ セミナーは事前登録制です。第35回日本臨床工学会公式ホームページよりご登録ください。

※ ランチョンセミナー事前登録締切日：2025年4月30日(水)

※ 整理券は開始5分で無効となります。

市立病院における ICT機器を活用した医療DXの取り組み

平澤 慎也 先生

飯田市立病院 診療技術部 臨床工学科 主任

当院は、2024年3月～5月に救急領域のセントラルモニタの更新を行った。救急領域の患者受け入れ状況としては、飯田下伊那地域の中核病院として、年間約4000件以上の救急車やドクターヘリの救急搬送患者を受け入れている。歩行での受診患者を合わせると、年間総患者数は10,000人以上となっている。救急患者の受け入れの流れとして、救急外来または救急初療で患者を受け入れ、超急性期の入院が必要な場合は、救急病棟・HCUへ入院となる。救急病棟・HCUとも超急性期を脱すると、一般病棟へ転床となり、平均在室日数は3日となっている。

今回救急領域のセントラルモニタの更新にあたり、更新前の状況として大きな問題点が2点上がった。1点は、転床時の問題点。ベッドの回転率が高いことにより、転床時にベッドサイドモニタの機器の不一致トラブルや、転床中の患者データ保存問題などのトラブルが頻発していたこと。もう1点は、超急性期のため患者バイタルの測定回数が多く、手動転記で電子カルテへ入力していたため、看護師の電子カルテへの記録入力回数が多いことが負担であった。主にこの2点を改善することを考慮して、救急領域のモニタ更新を行なった。また、今回の更新に伴いCMSビューワのアプリケーションを使うことで、アプリケーションが入っている院内の電子カルテ端末であれば、どの場所からもアクセス制限なくセントラルモニタの情報を収集でき、業務の効率化ができた。モニタ更新前の問題点に関して、ICT機器を活用した医療DXへの取り組みにより業務改善した事例を共有し、有益な情報をお持ち帰りいただければ幸いである。



第35回日本臨床工学会